

一 北野学区のながめ

(一) 全体のようす



北野小学校屋上からのながめ（東）

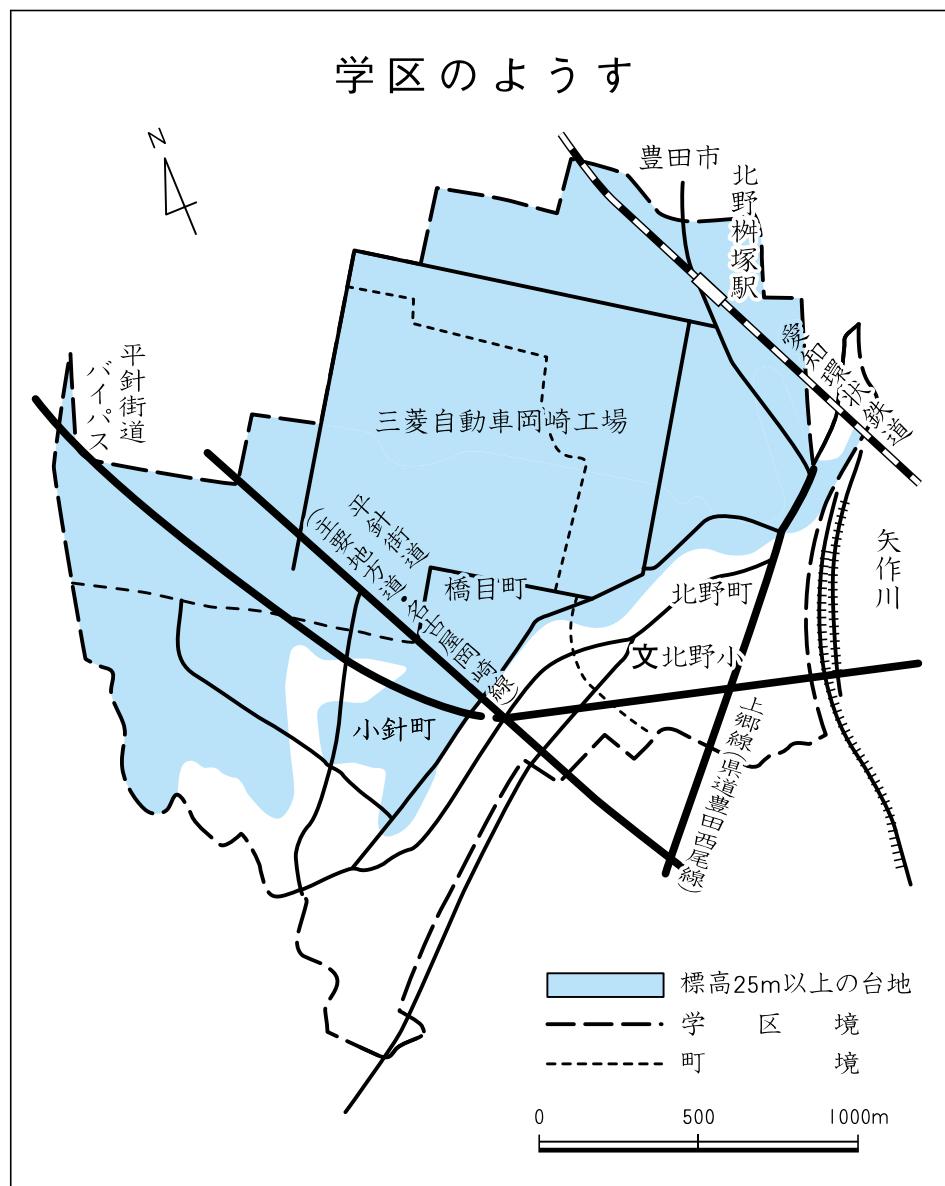
わたしたちの学区は、岡崎市のおかざき市にあります。

面積は約四平方キロメートル、人口約一万五百人（平成二十六年調べ）で北野町、橋目町の一部（通称橋目中町）、小針町があります。東は矢作川、南には矢作北学区と矢作西学区があり、西は安城市、北は豊田市と接しています。

学校のまわりは、矢作川右岸の低地（海からの高さ十六メートル）の北の端で、高さ二十五メートルほどの台地につながっています。この台地の



北野小学校屋上からのながめ（北）





北野用水の分水工

学区の東は、矢作川が北から南へゆつたり流れ、高い堤防にそつて矢作川幹線水路があります。この水路は、岡崎平野で使う水を、巴川（矢作川の支流）の細川頭首工で取り入れ、矢作川の下をサイフォンでくぐらせ、北野町の北野分水工から北野用水に配水されています。矢作川に平行して、県道の上郷線（県道豊田西尾線）が低地より台地上に走り、道ぞいに住宅や店ができています。

学区のほとんどは、北から西に広がる台地で、台地のはしには、国史跡の北野廃寺跡や、多くの古墳跡もあつて、大むかしから人々が生活し、力のある「ムラ」の頭が住んでいたようです。台地上は明治用水のおかげで、豊かな水田が広がっています。豊田市との境には愛知環状鉄道北野駅があり、周

周には新しい家や店が立ちならんでいます。学区は農業地域から、岡崎市街周辺の工業・住宅地域として大きく変わつてきています。

西側の台地の中央を、平針街道（県道五十六号名古屋岡崎線）が通り、道路ぞいに大きな工場がならんでいます。なかでも三菱自動車・マルヤス工業・フタバ産業の三工場だけで学区の面積の三分の一をしめています。三菱自動車の工場をとり囲むように、数多くの工場が集まつていて、朝夕は通勤する人々の車で道路はたいへん混雑します。



上郷線周辺の住宅や店

(二) 台地のようす

学校の西に広がる台地は、大むかし矢作川の流れによつて運ばれた土や砂が積もつてできあがつた土地です。この台地の性質の名をとつて洪積層とよんだり、昔からあつた「碧海郡」の名前をとつて碧海台地と呼んだりしています。

また、三菱自動車の周辺は以前「長瀬山」と呼ばれ、大きな松が生えていた山や荒れ地でした。

むかしから水が少ないため田や畑にならず、長い間、ウサギやキツネ・タヌキの住む原野になつていました。人々は台地の端に住み、がけ下からわき出る清水を使い、南に広がる低地を耕していました。



水田より高い碧海台地に建てられた家々



明治十三年（一八八〇）に明治用水が開かれ、昭和八年（一九三三）頃から国^{めい}の食料増産政策^{しょくりょうぞうさんせいさく}として「長瀬山耕地整理事業^{こうちせいりじぎょう}」が始まり、地域^{ちいき}の人達^{たち}は雜木^{ばやし}林^のの山^のを開墾^{かいこん}し農地^{のうち}にするのに大変苦労^{たいへんくろう}しました。しかし、やつと耕地^{耕地}として

整^{ととの}つた昭和十七年頃、そこに飛行場^{ひこうじょう}をつくるとい
う話^{はな}が起^こり、人々は國^{こく}のために、泣^なく泣^なく土地^ちを手放^{てばな}しました。戦争^{せんそう}が終^おわり、やがて土地^ちは地^じ域^きの人^{ひと}に戻^{もど}されました。飛行場^{ひこうじょう}として踏^ふみ固^{かた}められた土地^ちを掘^ほり返^{かえ}し、水を引いて田畠^{たんば}にするため^{ため}に再び苦労^{くろう}しました。

その後、岡崎市は飛行場跡^{あと}の広い田畠^{たんば}に工場^{こうじょう}を誘致^{ゆうち}する計画^{けいかく}を立て、再び土地買収^{ばいしゅう}が行われました。多くの地主^{じぬし}の人たちが、市の発展^{はつてん}のためにな

ればという思いから、苦労して開墾した田畠を手放すことに一抹の寂しさと将来への期待がありました。その土地に三菱自動車岡崎工場やマルヤス工業、フタバ産業を始め、学区の工場群がつくられました。

また、北野町の北野桺塚駅の周辺や、橋目中町の御小屋西、小針町区画整理地区では次々と家が建ち、今では、多くの人が住むようになりました。このよう広い台地はいろいろな使われ方がされ、四十数年前まで、見渡す限りに広がっていた水田や果樹園は、ほとんど姿を消してしまいました。

(三) 低地のようす

学校のまわりの低地は、一万年ほど前から矢作川によつて運ばれた土や砂が、約二十メートル以上も積もつてつくられたものです。この土地は、水田として利用されているところと、畠や宅地として利用している少し高いところとが

あります。この少し高いところは低地のなかでも洪水の心配が少ない土地として、むかしから神社・寺院や宅地として利用されてきました。つねに洪水の危険にさらされていたむかしの人々の生活の知恵といえます。



北野小学校周囲の水田

矢作川はむかしからたびたび洪水を起こし、低地の田をおし流して、長い間人々を苦しめてきました。しかし、みんなで協力し合って、堤防や排水路を整備してきたため、低地はかわいた土地に姿を変えました。田植え等に必要な水は用水から取り入れ、いらないときは排水路に流すことにより、広いじめじめした低地は、豊かな農地となつて、町や村の生活を支えてきました。（詳しくは七十七ページ及び巻末の碑文を参照）